

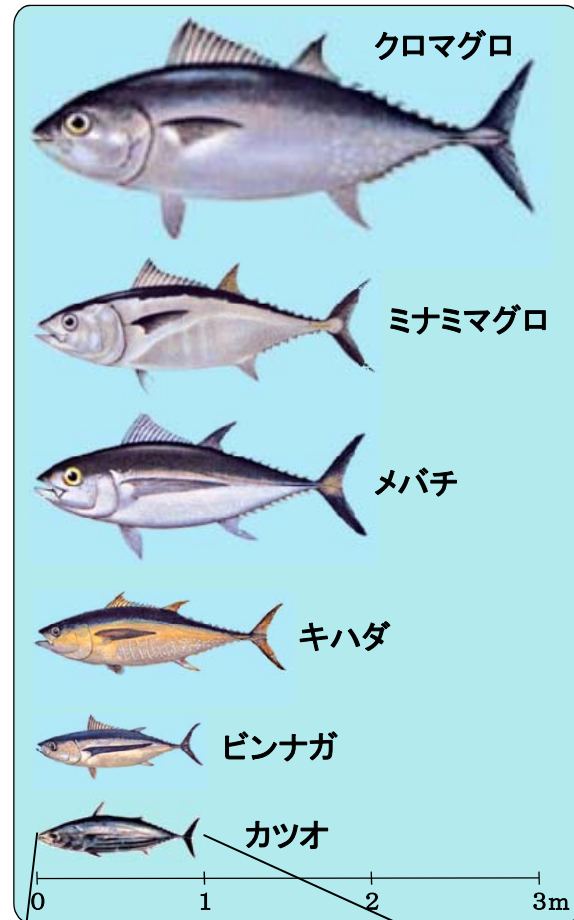
かつお・まぐろ類に関する国際情勢について

目次

1. 主要なかつお・まぐろの種類
2. 漁業の種類
3. 世界のかつお・まぐろ類の漁獲量の推移
4. 海域別、国別、魚種別かつお・まぐろ類の漁獲量
5. 我が国のかつお・まぐろ類供給量と価格
6. 我が国におけるクロマグロ養殖
7. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関
8. 主要なかつお・まぐろ類の資源状況

平成28年1月
水産庁

1. 主要なかつお・まぐろの種類



クロマグロ(Atlantic Bluefin Tuna / Pacific Bluefin Tuna):

地中海を含む大西洋、太平洋の主として北半球に分布(大西洋と太平洋で別種)。本マグロとも呼ばれ、マグロ類の中でも最高級品とされる。インド洋には分布しない。主に刺身に利用。

ミナミマグロ(Southern Bluefin Tuna):

南半球の高緯度海域を中心に分布。インドマグロとも呼ばれ、クロマグロに次ぐ高級品とされる。主に刺身に利用。

メバチ(Bigeye Tuna):

世界中の温帯から熱帯の海域に分布。目玉が大きくぱっちりしていることから目鉢マグロと呼ばれる。主に刺身に利用。

キハダ(Yellowfin Tuna):

メバチとほぼ同じ海域に分布。体色が黄色味がかっていることから黄肌マグロと呼ばれる。刺身及び缶詰に利用。

ビンナガ(Albacore):

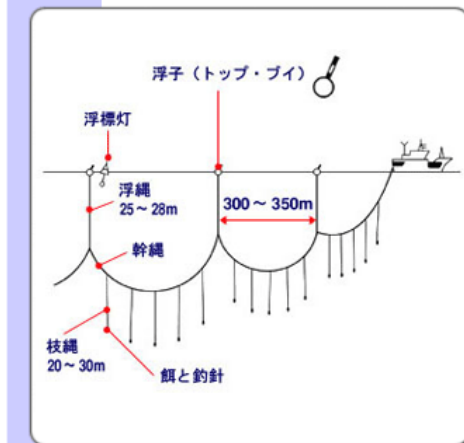
世界中の海に広く分布する小型のマグロ。長い刀状の胸びれが特徴で油漬けの缶詰の原料になる。最近は刺身にも利用される。ビンチョウ、トンボとも呼ばれる。

カツオ(Skipjack):

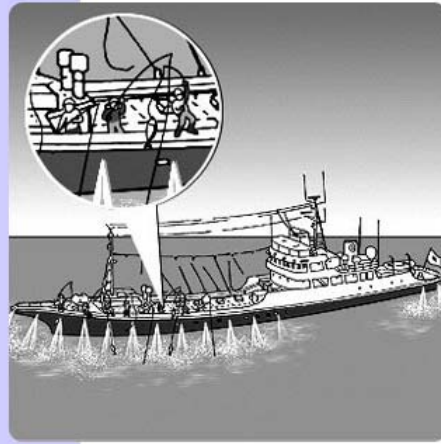
世界中の海に広く分布し、特に南方水域では一年中獲られる。腹側に濃青色のしまが入っているのが特徴。かつおは用途が広く、刺身、タタキ、節、缶詰等に利用される。

2. 漁業の種類

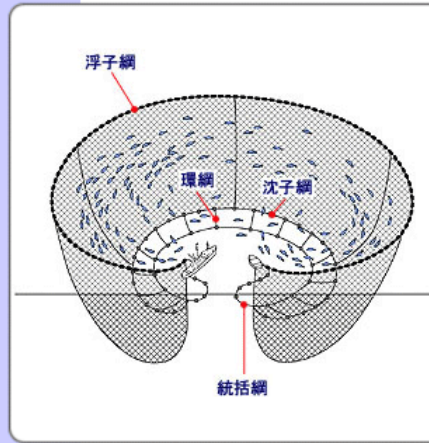
図: 社団法人大日本水産会、長崎県



はえ縄



竿釣り ※図は一本釣り



まき網



曳き縄釣り

はえ縄

- ・主にクロマグロ、ミナミマグロ、メバチ、キハダ、ビンナガを対象

竿釣り

- ・主にカツオ、ビンナガを対象

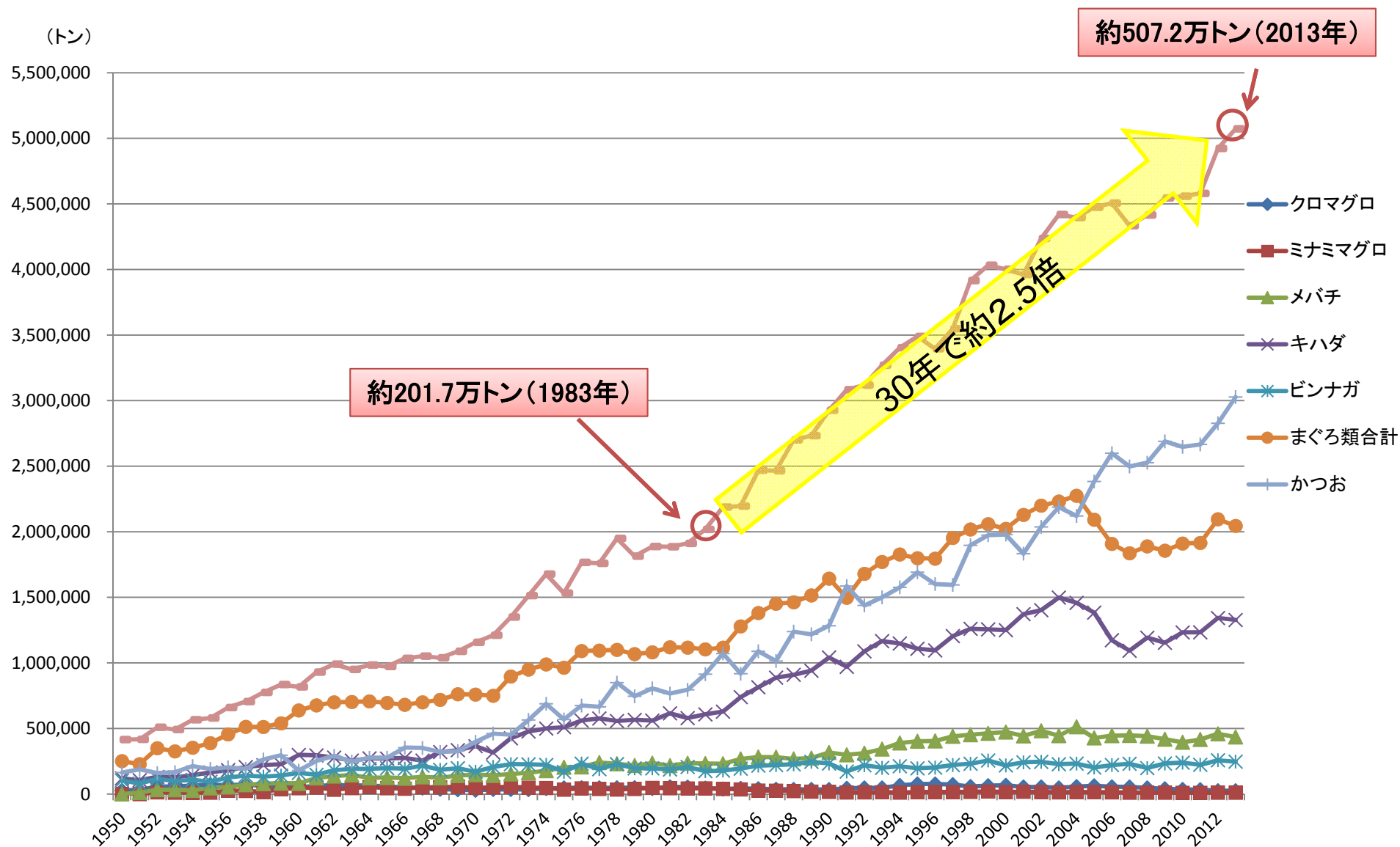
まき網

- ・主にクロマグロ、カツオ、キハダを対象

曳き縄釣り

- ・主にクロマグロを対象

3. 世界のかつお・まぐろ類の漁獲量の推移



資料:FAO統計

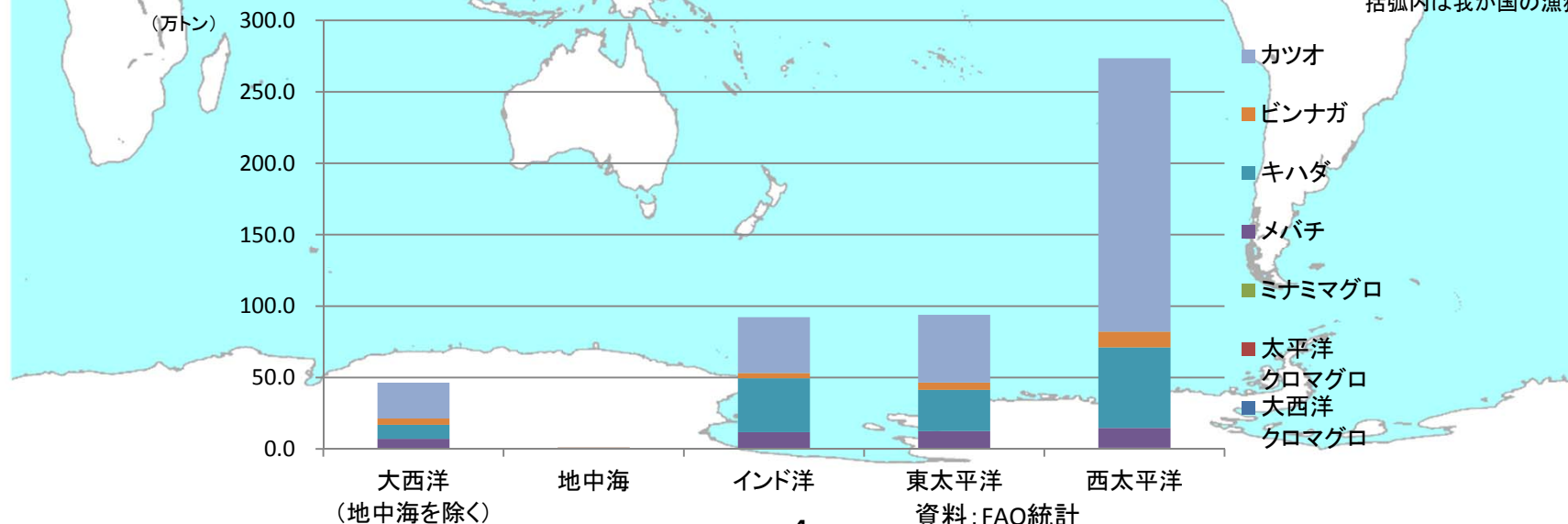
注:集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

4-1. 海域別かつお・まぐろ類の漁獲量(2013年)

(単位: 万トン)

	合計	大西洋 クロマグロ	太平洋 クロマグロ	ミナミマグロ	メバチ	キハダ	ビンナガ	カツオ
大西洋 (地中海を除く)	46.4 (2.5)	0.5 (0.1)	-	0.1 (0.1)	6.5 (1.3)	9.8 (0.5)	4.4 (0.5)	25.0 (0.0)
地中海	1.1 (0.0)	0.9	-	-	-	-	0.2	0.0
インド洋	92.3 (1.4)	-	-	0.8 (0.1)	11.0 (0.6)	37.7 (0.4)	3.7 (0.2)	39.0 (0.1)
東太平洋	93.9 (2.1)	-	0.3	-	12.2 (1.6)	28.8 (0.3)	5.2 (0.2)	47.3 (0.0)
西太平洋	273.5 (38.2)	-	0.7 (0.7)	0.2 (0.1)	13.8 (1.6)	56.3 (3.7)	11.1 (5.3)	191.3 (26.9)
合計	507.2 (44.2)	1.5 (0.1)	1.1 (0.7)	1.0 (0.3)	43.5 (5.0)	132.7 (4.9)	24.7 (6.2)	302.7 (27.0)

括弧内は我が国の漁獲量

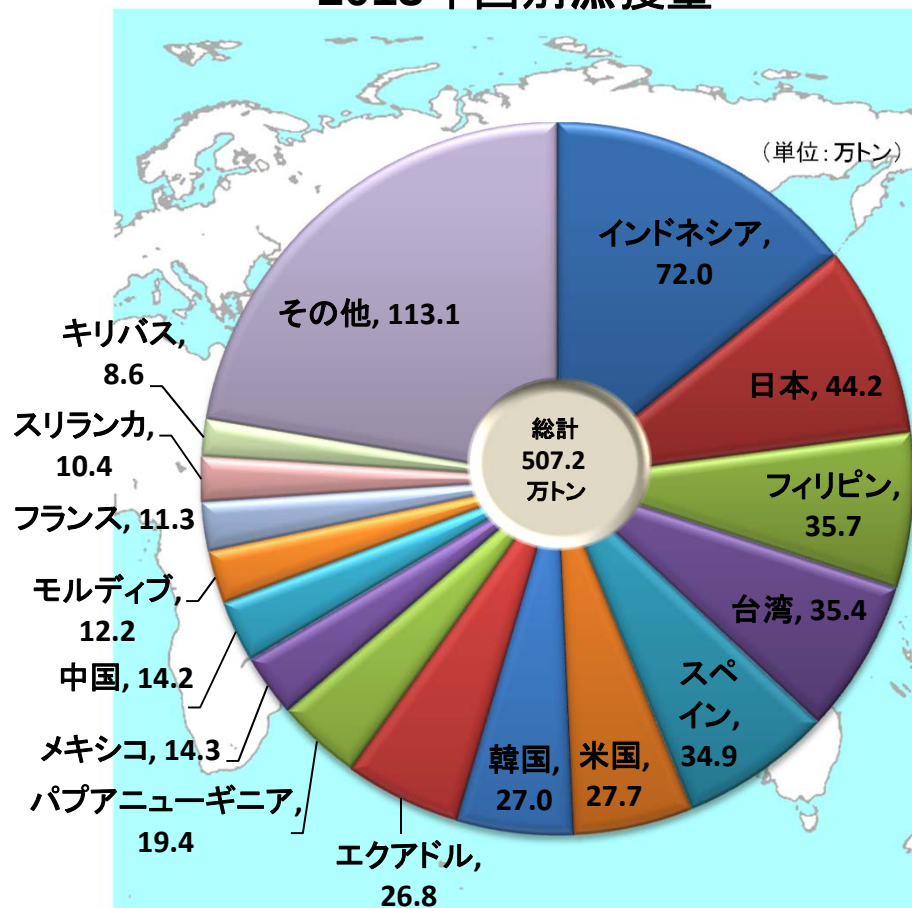


資料: FAO統計

注: 集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

4-2. 国別・魚種別かつお・まぐろ類の漁獲量(2013年)

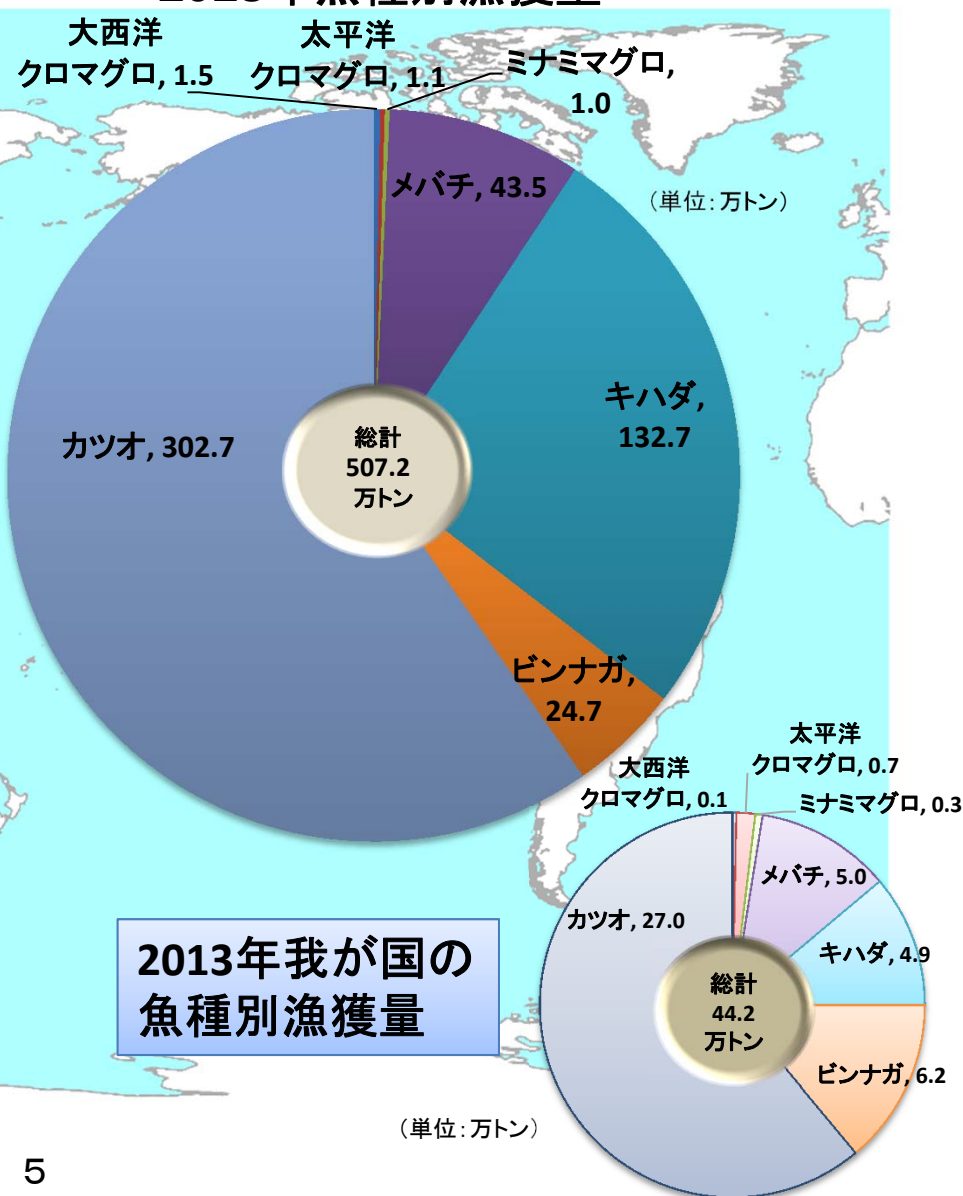
2013年国別漁獲量



資料: FAO統計

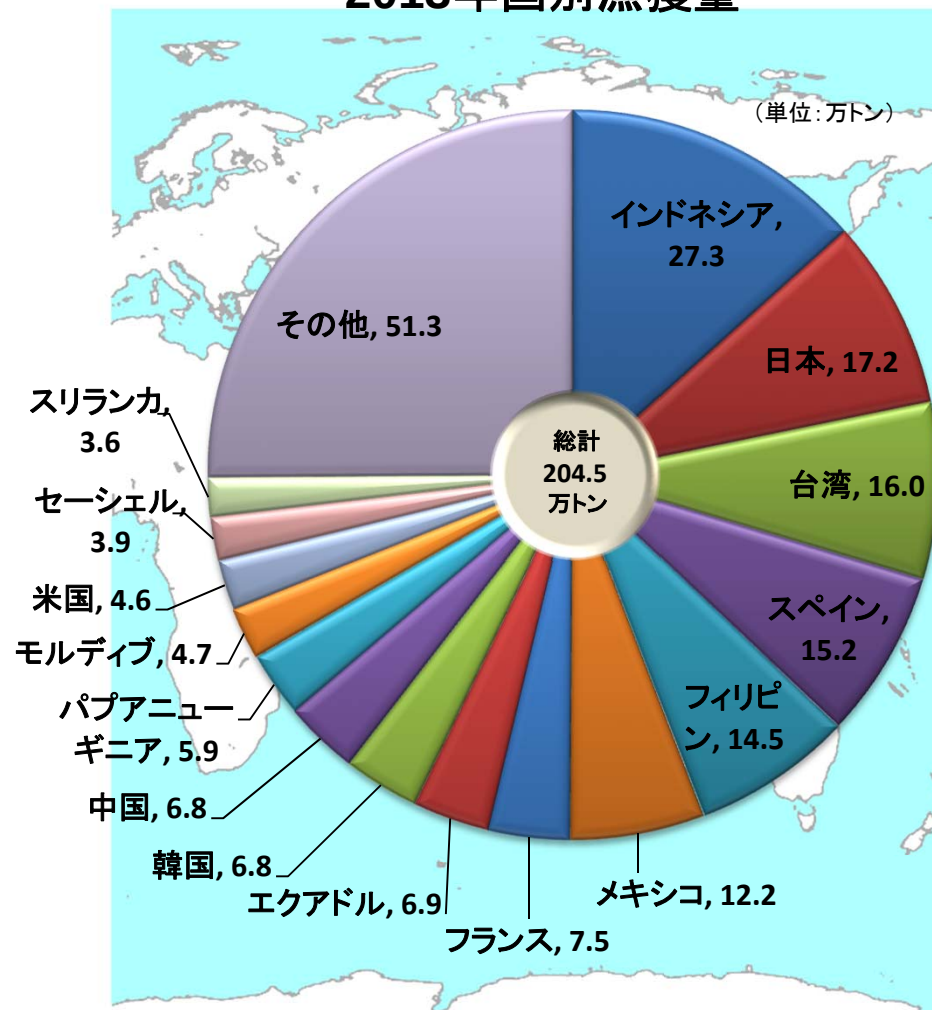
注: 集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

2013年魚種別漁獲量



4-3. 国別・魚種別まぐろ類の漁獲量(2013年)

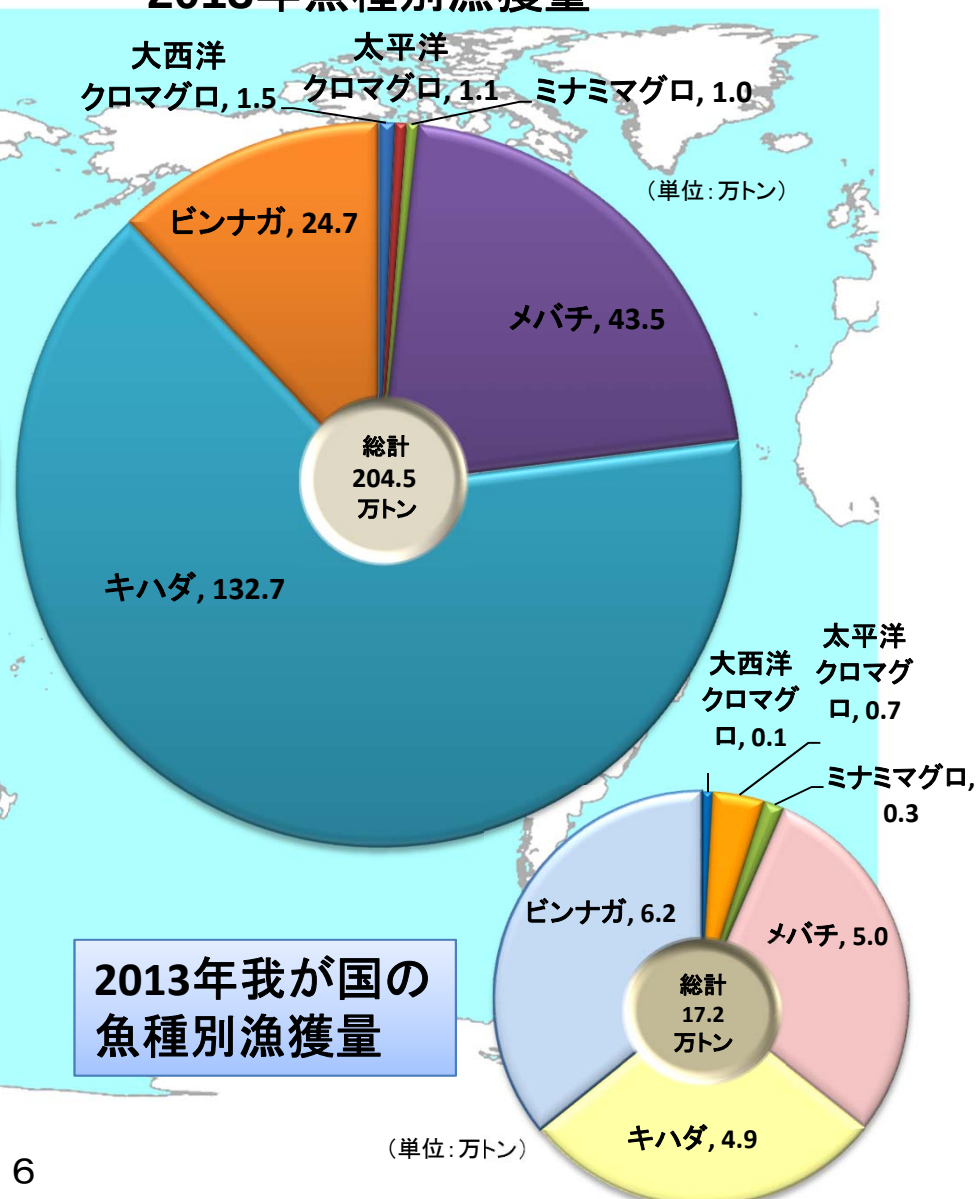
2013年国別漁獲量



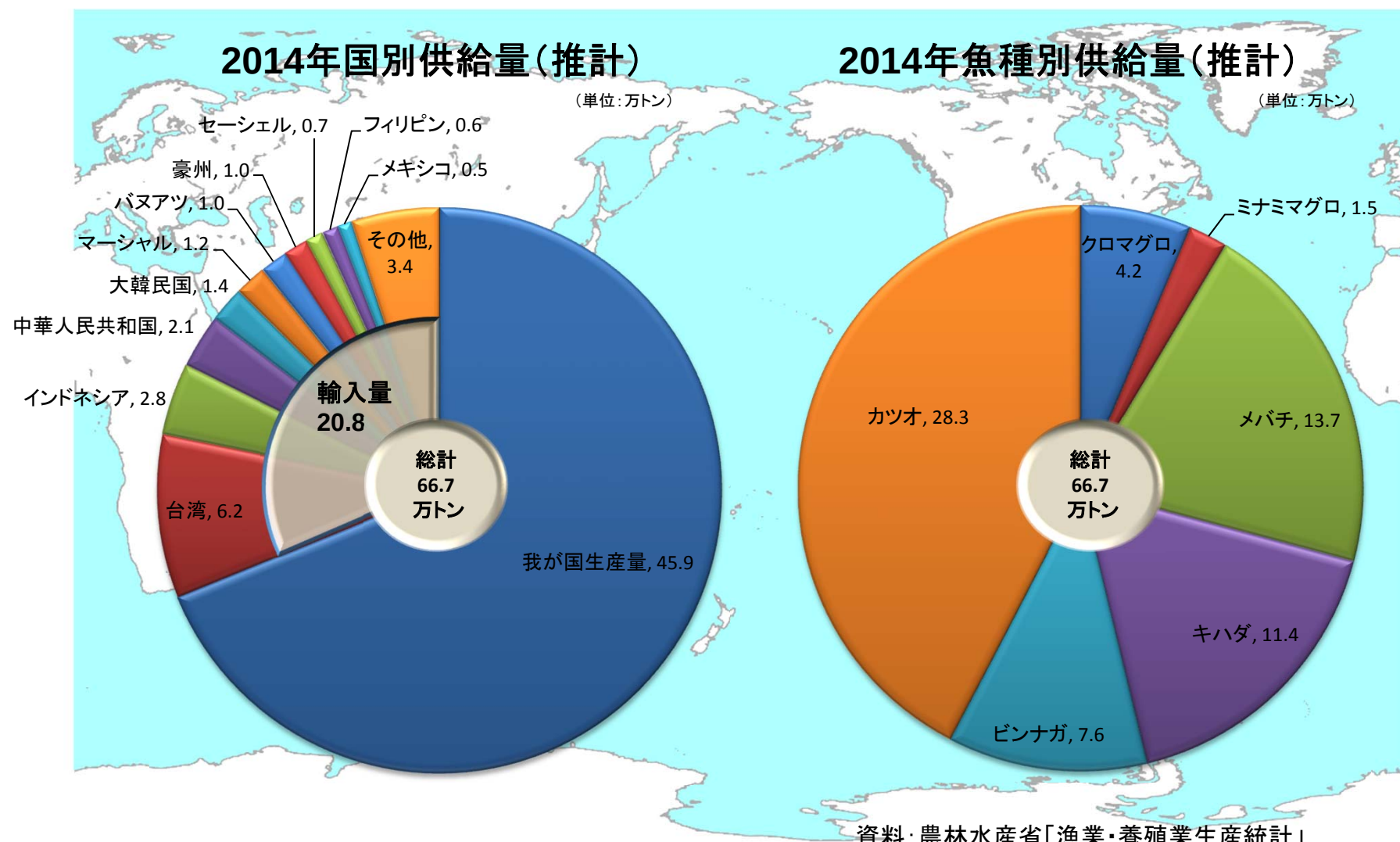
資料: FAO統計

注: 集計方法の違いにより、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」の値と一致しない。

2013年魚種別漁獲量

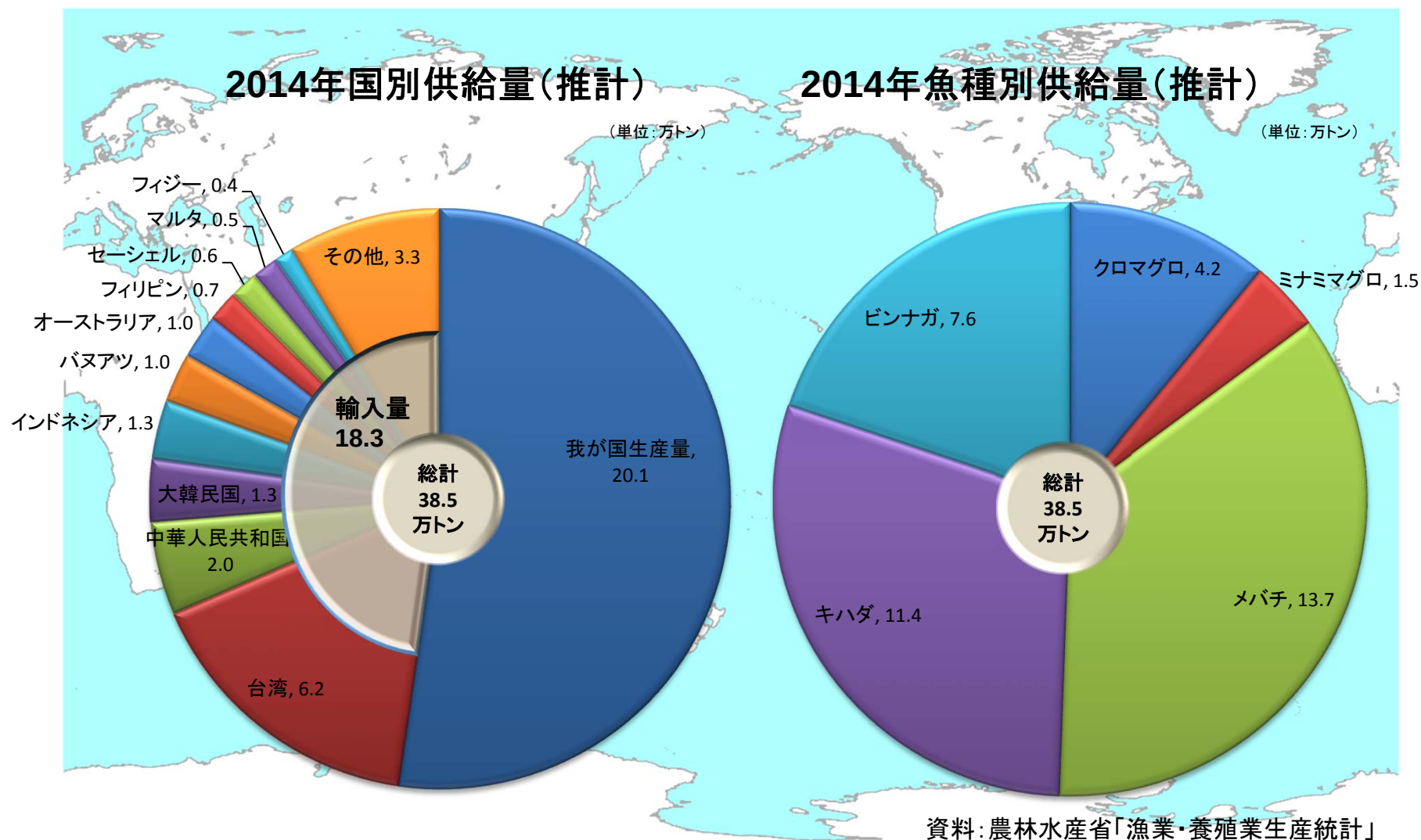


5-1. 我が国の主要なかつお・まぐろ類供給量



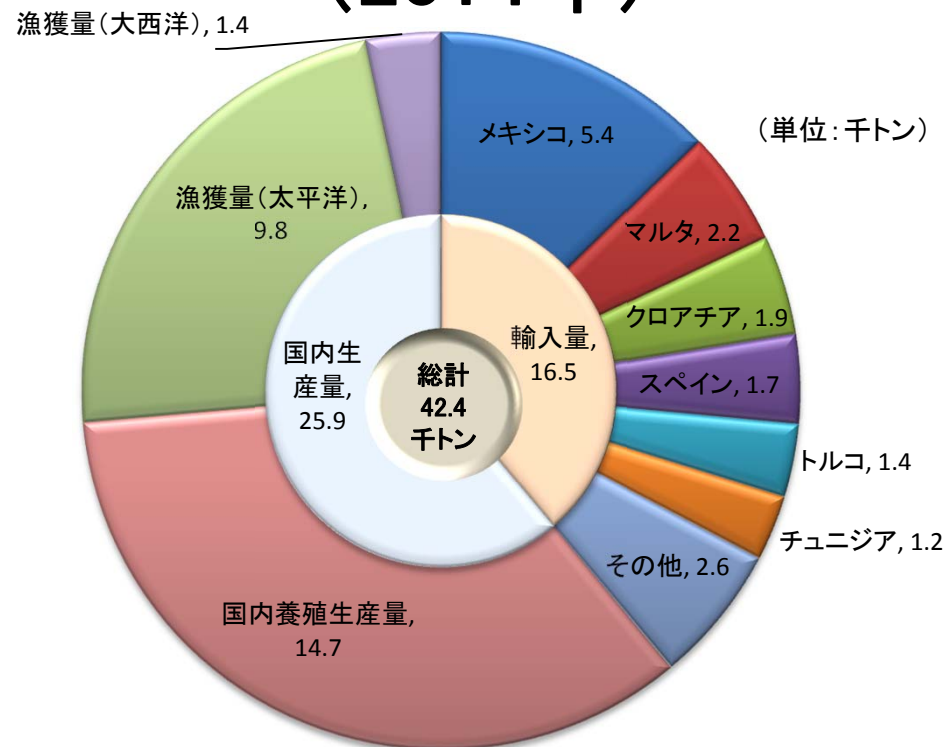
資料: 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」
財務省「貿易統計」に基づく推計
太平洋クロマグロは国内養殖生産量含む

5-2. 我が国の主要なまぐろ類供給量



資料: 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」
財務省「貿易統計」に基づく推計
太平洋クロマグロは国内養殖生産量含む

5-3. 我が国へのクロマグロの供給量(推計) (2014年)



■クロマグロ海域別供給量(2014年)

太平洋	国内生産量	約 9,763トン
	国内養殖生産量	約 14,700トン(推計)
	輸入量	約 6,916トン
大西洋	国内生産量	約 1,437トン
	輸入量	約 9,600トン

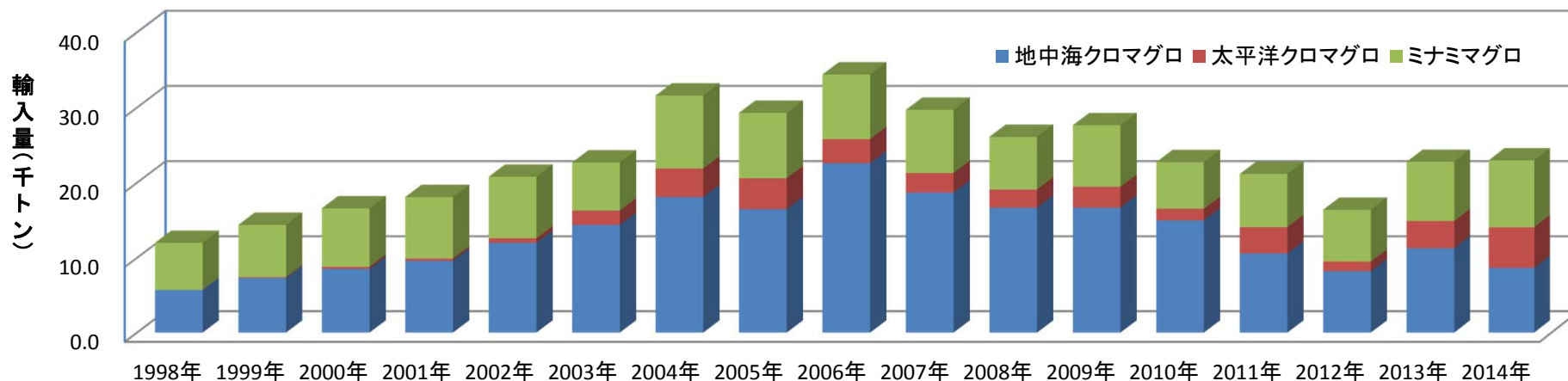
資料:ISC及び財務省「貿易統計」に基づく推計

※ 大西洋クロマグロの漁獲量は水産庁による推計によるもの(漁期年「8月～翌7月」を採用)

※ 太平洋クロマグロの国内生産量は養殖種苗分を含む

5-4. 海外からの養殖(蓄養)まぐろ輸入量の推移

養殖マグロ輸入量の推移(製品重量:千トン)



養殖マグロ輸入量の推移(国別、製品重量:千トン)

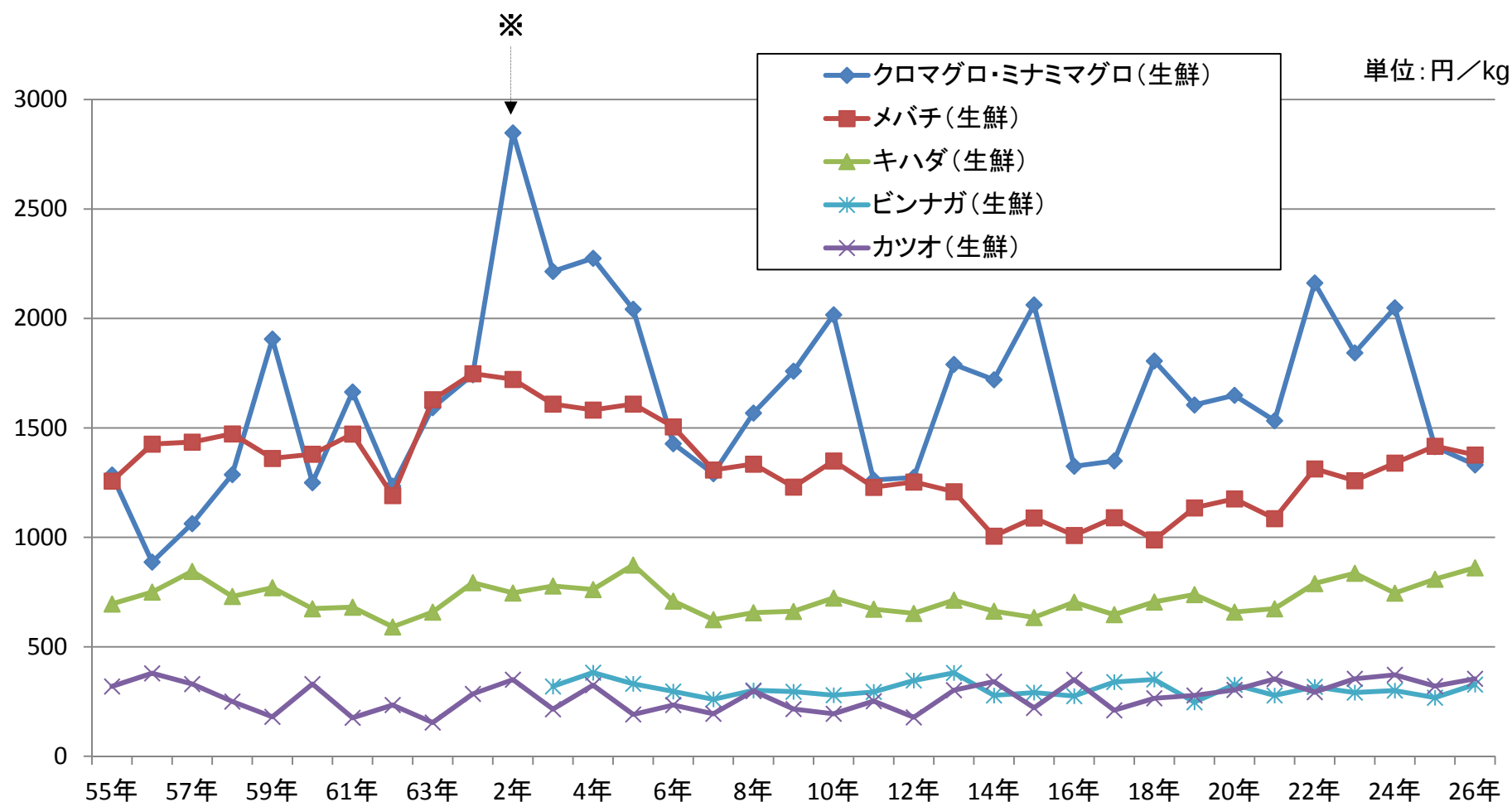
魚種	海域	国名	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
クロマグロ	地中海	EU																	
		スペイン	3.2	5.0	4.4	4.8	4.7	4.3	4.3	4.4	3.7	3.3	3.9	2.1	1.7	1.5	1.9	2.3	1.7
		マルタ	0.2	0.0	0.3	0.6	1.1	0.7	1.7	2.2	4.5	2.2	4.5	3.0	2.7	3.5	1.8	4.3	2.2
		キプロス	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	1.1	0.8	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		イタリア	1.1	1.3	1.4	0.8	0.9	1.2	0.6	1.1	2.7	2.8	1.8	1.0	5.6	0.0	0.3	0.1	0.1
		ギリシャ	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1
		クロアチア*1	(0.2)	(0.3)	(0.7)	(1.0)	(2.2)	(2.7)	(3.6)	(2.5)	(4.7)	(4.0)	(1.3)	(3.7)	(1.9)	(2.3)	(1.9)	1.5	1.9
		EU計	4.8	6.5	6.4	6.5	6.8	6.3	7.0	8.8	12.8	9.5	11.3	7.3	10.6	5.9	4.2	8.4	6.0
		トルコ	-	-	-	-	0.3	1.6	2.8	2.8	3.2	3.4	2.3	3.5	1.2	1.5	1.5	1.6	1.4
		チュニジア	0.7	0.5	0.5	0.5	0.3	0.5	0.7	1.3	1.7	1.8	1.8	2.3	1.1	1.0	0.6	1.3	1.2
		パナマ*2	-	-	0.9	1.6	2.4	3.3	4.0	1.1	0.2	-	-	-	0.2	0.0	-	-	-
	地中海 計		5.7	7.3	8.5	9.6	12.0	14.4	18.1	16.5	22.6	18.7	16.7	16.7	15.0	10.6	8.2	11.3	8.7
クロマグロ	太平洋	メキシコ	0.0	0.1	0.3	0.3	0.6	1.9	3.8	4.1	3.2	2.6	2.4	2.8	1.5	3.5	1.3	3.6	5.4
	クロマグロ 計		5.7	7.4	8.8	9.9	12.6	16.3	21.9	20.6	25.8	21.3	19.1	19.5	16.5	14.1	9.5	14.9	14.1
ミナミマグロ		オーストラリア	6.3	7.0	7.8	8.2	8.2	6.4	9.7	8.7	8.6	8.4	7.0	8.2	6.2	7.1	6.9	7.9	8.9
合計			12.0	14.4	16.6	18.1	20.8	22.7	31.6	29.3	34.4	29.7	26.1	27.7	22.7	21.2	16.4	22.8	23.0

*1: EUに加盟した2013年より合算

*2: パナマ籍船舶において船上加工されたもので、原料は地中海産の養殖クロマグロと推定

資料: 財務省貿易統計(国名及び魚種から養殖生産と推定)

5-5. かつお・まぐろ類価格(卸売価格)の推移(生鮮)

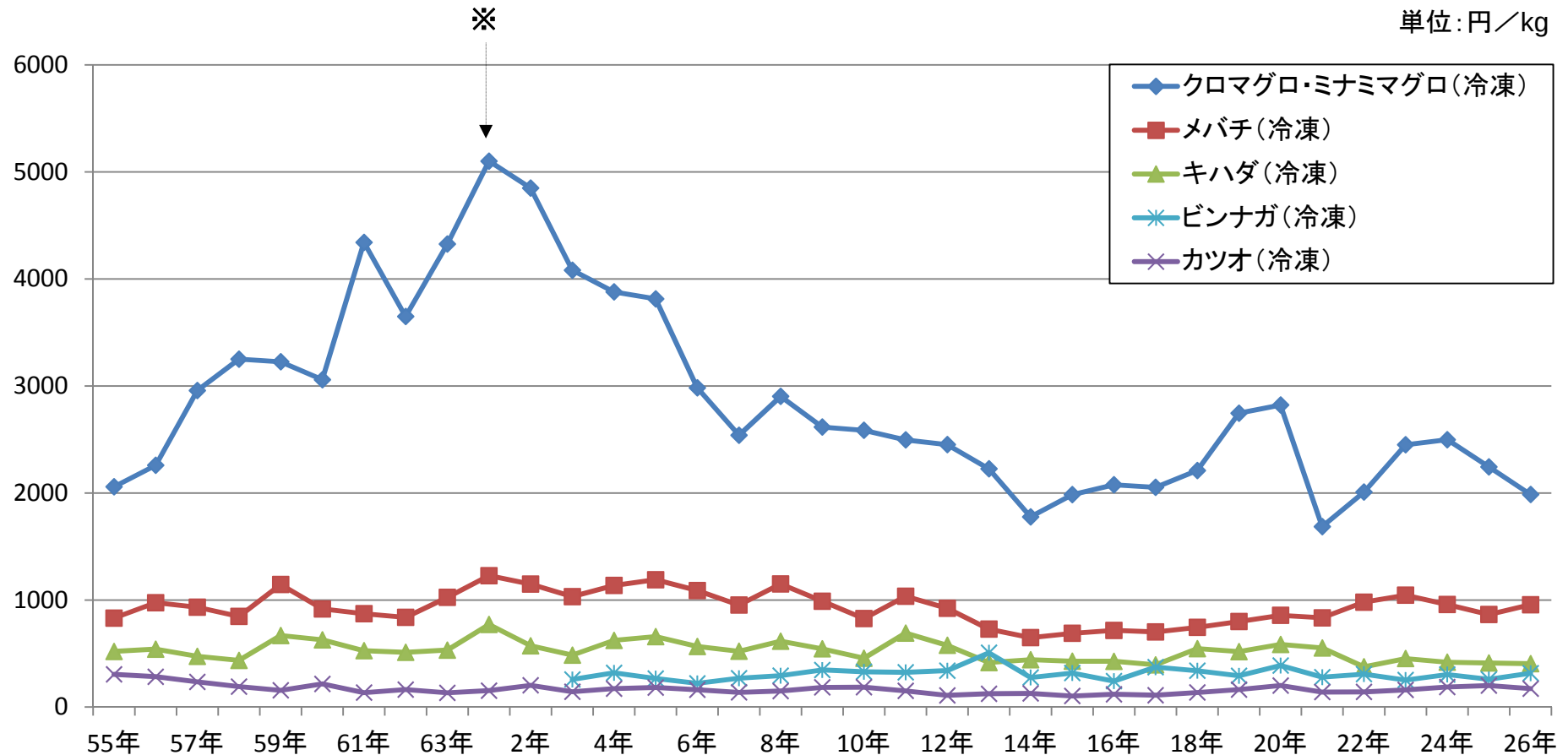


資料: 農林水産省「産地水産物流通統計」、平成21年度からは(社)JAFIC「産地水産物流通統計」を使用

注: クロマグロ・ミナミマグロは両魚種の加重平均

※バブル経済下での高級品需要の高まりにより「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は平成2年がピーク(2,848円/kg)となった。

5-6. かつお・まぐろ類価格(卸売価格)の推移(冷凍)



資料: 農林水産省「産地水産物流通統計」、平成21年度からは(社)JAFIC「産地水産物流通統計」を使用

注: クロマグロ・ミナミマグロは両魚種の加重平均

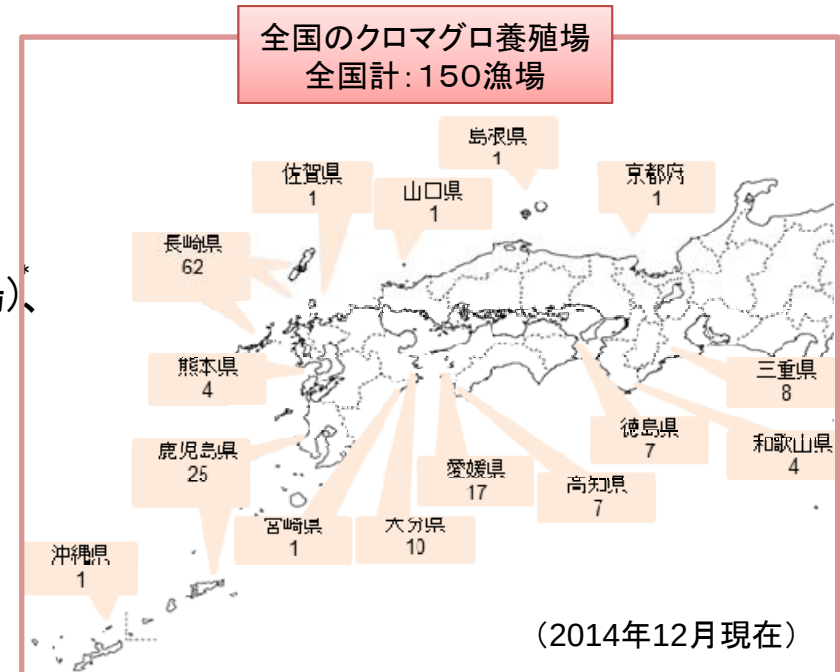
※バブル経済下での高級品需要の高まりにより「クロマグロ及びミナミマグロの加重平均価格」は平成元年がピーク(5,101円/kg)となった。

6. 我が国におけるクロマグロ養殖

クロマグロ養殖の現状

- ・ クロマグロは、水温、水質等の条件に恵まれた地域や養殖種苗の漁獲地の近くなどで養殖。
- ・ 全国のまぐろ類養殖の経営体数は、95経営体(150漁場)、
- ・ 国内では、曳き縄釣りで漁獲した全長20～30 cm、体重100～500 g 程度の幼魚(ヨコワ)を生け簀に入れ2～3年飼育して出荷するスタイルが主流。

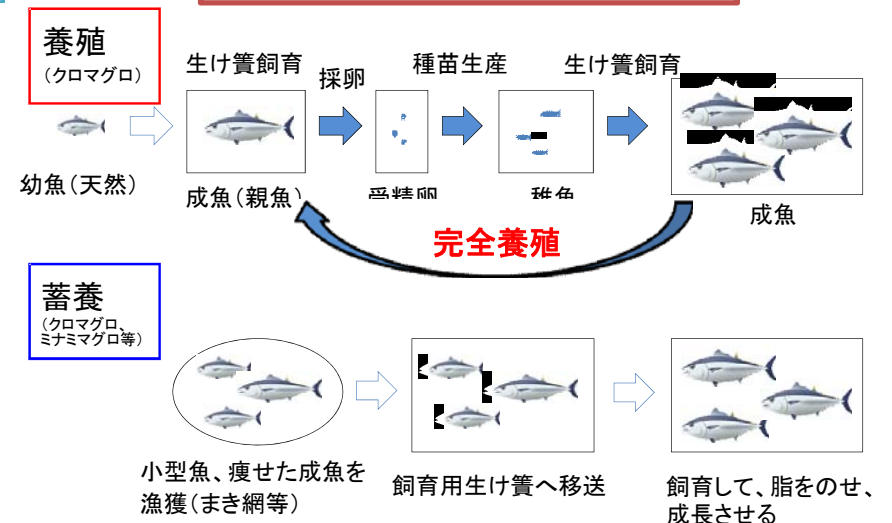
*経営体数、漁場数は平成26年末時点。



クロマグロ養殖の課題

- ・ 天然資源に頼らずに養殖を行うための、人工種苗の量産技術の開発
- ・ 養殖用配合飼料の開発
- ・ 海象条件等の厳しい海域での養殖を可能とする技術開発

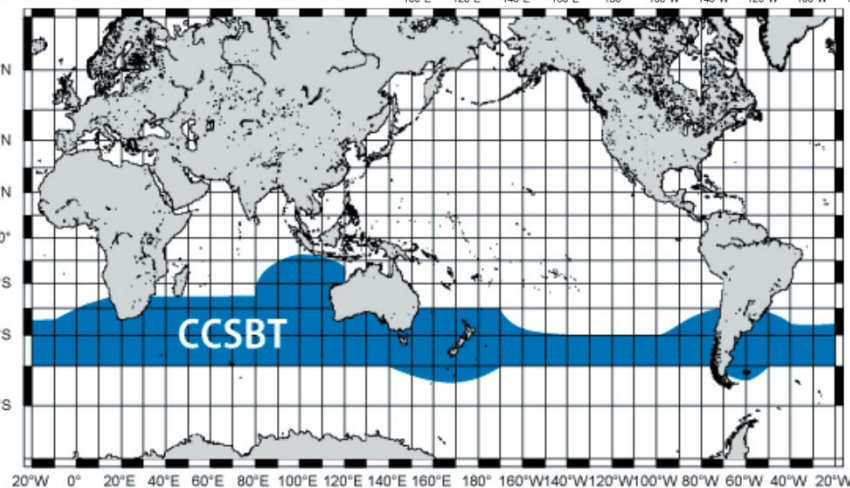
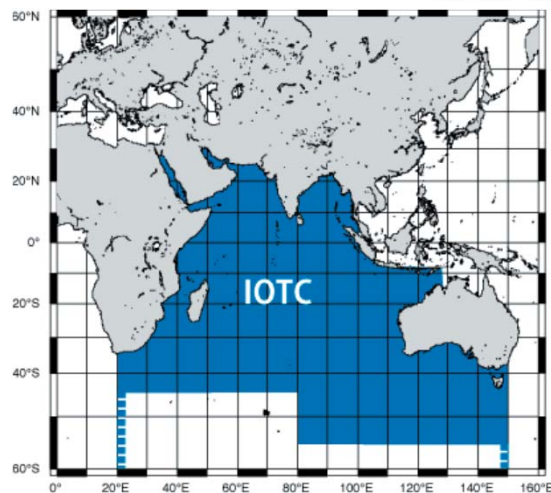
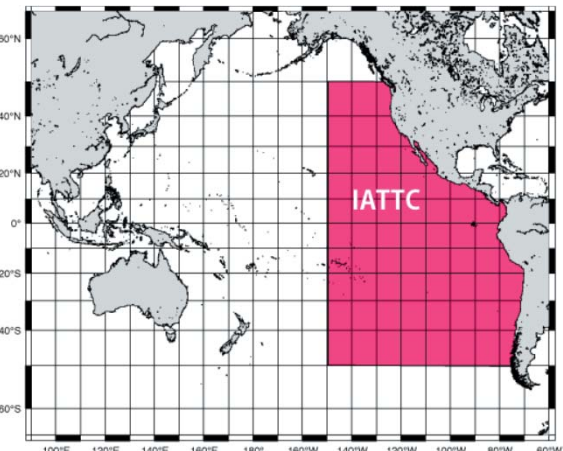
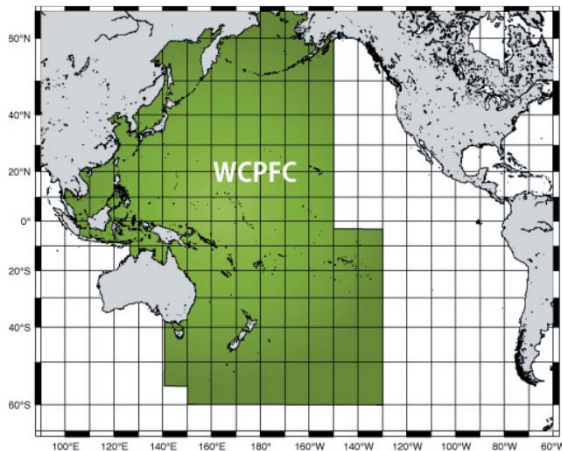
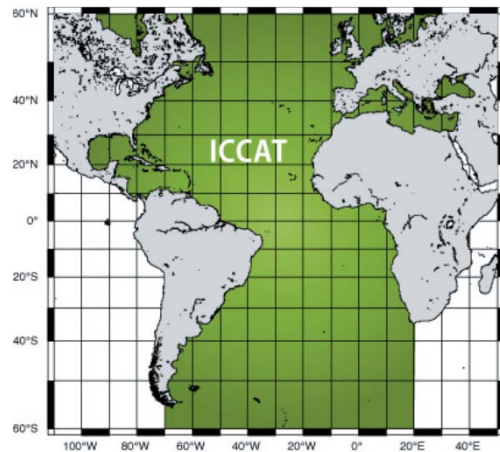
養殖・完全養殖と蓄養



7-1. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関(RFMO)

Tunas Regional Fisheries Management Organization

- 5つのRFMOが全世界の海洋を管理。我が国はすべてのRFMOに加盟。
- RFMOは魚種ごとの資源状況等を踏まえ種々の資源管理措置を実施。
- 我が国にとって特に重要なのは、我が国排他的経済水域を管理する中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)と大西洋くろまぐろを管理する大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)。



7-2. RFMOにおける主な規制措置



ICCAT (大西洋まぐろ類保存国際委員会) 〈年次会合: 毎年11月開催〉

- ① 総漁獲可能量(TAC)の管理。(東大西洋クロマグロ
2015年漁期:16,142t、2016年漁期:19,296t、2017年漁期:23,155t)
- ② 30kg未満の大西洋クロマグロの採捕、保持、水揚げを原則禁止。
- ③ 保存管理措置に反したクロマグロの輸出入の禁止と、蓄養の監視措置等クロマグロの管理を強化。
- ④ 運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。
- ⑤ クロマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。



IOTC (インド洋まぐろ類委員会) 〈年次会合: 毎年4月又は5月開催〉

- ① メバチ、キハダについて、毎年の実操業隻数を2006年水準に制限。
- ② ビンナガ、メカジキについて、毎年の実操業隻数を2007年水準に制限。
- ③ 運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。



IATTC (全米熱帯まぐろ類委員会) 〈年次会合: 毎年6月又は7月開催〉

- ① メバチ・キハダについて、2014～2016年の措置として以下を決定(毎年見直し)
 - (a) まき網漁業においては、62日間の禁漁及び沖合特定区での1ヶ月間の禁漁。
 - (b) はえ縄漁業においては、2007年の漁獲枠から5%削減
- ② 太平洋クロマグロについて、2015年、2016年の年間漁獲上限3,300トン原則とし、2年間で6,600トンを超えないよう管理。



WCPFC (中西部太平洋まぐろ類委員会) 〈年次会合: 毎年12月開催〉

- ① 熱帯マグロ(メバチ・キハダ・カツオ)について、以下の措置を決定。
 - (a) 熱帯水域のまき網漁業においては、2016年の措置として集魚装置を用いた操業の4カ月間禁止、又は代替措置の導入。公海においては2017年に集魚装置使用を原則禁止。また、島嶼国以外のメンバーは自国籍大型まき網漁船隻数凍結。
 - (b) はえ縄漁業においては、メバチについて、2001～2004年の平均値から漁獲量を40%削減(2014～2017年で段階的に実施)。
- ② 太平洋クロマグロについて、以下の措置を決定。
 - (a) 歴史的最低水準付近にある親魚資源量(約2.6万トン)を2024年までに歴史的中間値(約4.3万トン)まで回復させることを当面の目標とする。
 - (b) 30kg未満小型魚の漁獲量を2002-2004年平均水準から半減。
 - (c) 30kg以上の大型魚の漁獲量を2002-2004年平均水準から増加させないためのあらゆる可能な措置を実施。
 - (d) 加入が著しく低下した場合に緊急的に講ずる措置を2016年に決定。



CCSBT (みなみまぐろ保存委員会) 〈年次会合: 毎年10月開催〉

- ① MP(管理方式)によるミナミマグロの総漁獲可能量(TAC)の管理。
(2014年漁期: 12,449t、2015年～2017年漁期: 14,647t)
- ② ミナミマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。

RFMO 合同会合

- (5つのマグロRFMOの加盟国等が一堂に会し、共通の諸問題について強調した対応に取り組むために開催)
 〈第1回: 2007年1月(神戸)、第2回: 2009年6～7月(サン・セバスティアン: スペイン)、第3回: 2011年7月(ラホーヤ: 米国)〉
 各RFMOが以下の措置を緊急に採択するよう勧告。
 ① 世界的に過剰なマグロの漁獲能力(漁船数等)を解決する措置をとる。
 ただし、沿岸途上国の漁業発展を害しないようこれを実施する。
 ② 管理措置を徹底するため、5つの地域漁業管理機関で統一性を図る。
 ③ 混獲されるサメ、海鳥、海亀について協調した対策をとる。

※2016年1月現在の情報です。
 最新の会議結果についてはプレスリリースをご覧ください。

8. 主要なかつお・まぐろ類の資源状況

主要なかつお・まぐろ類の資源状況					
魚種	ICCAT 大西洋	IOTC インド洋	IATTC 東部太平洋	WCPFC 中西部太平洋	CCSBT ミナミマグロ
クロマグロ	東大西洋： 高位／増加 西大西洋： 中位／増加	—	—	低位／減少	—
ミナミマグロ	—	—	—	—	低位／ 微増（親魚） 増加（未成年）
メバチ	低位／横ばい	中位／増加	低位／横ばい	低位／減少	—
キハダ	中位／横ばい	中位／微増	中位／横ばい	中位／横ばい	—
ビンナガ	北大西洋： 低位／横ばい 南大西洋： 中位／横ばい	中位／減少	—	北太平洋： 中位／横ばい 南太平洋： 高位／横ばい	—
カツオ	高位／横ばい	高位／横ばい	高位／横ばい	高位／減少	—

資料：水産庁「平成26年度 国際漁業資源の現況」

(注)「資源水準／資源動向」の順に表示

資源水準：過去20年以上にわたる資源量（及び漁獲量）の推移等により、「高位、中位、低位」の3段階に区分

資源動向：資源量や漁獲量の過去5年間の推移から、「増加、横ばい、減少」に区分